

令和3年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

風通しのよい、企業組合による「桜の郷」づくり！

○ 集団等の名称 企業組合さくらの郷（代表 齋藤 寛一）

○ 所在地 福島県二本松市

○ 受賞理由

・ 地域の沿革と概要

二本松市は、福島県中通り北部に位置する。当組合は阿武隈山系に位置する中山間地域に在し、養蚕業と稲作をなりわいとしてきたが、高齢化や兼業化により農業の担い手が不足し、毎年、耕作放棄地が増加する傾向にあった。

農家の女性有志6名が地区の将来を危惧して立ち上がり、小さな直売所を開設して郷づくりを開始し、平成24年に「企業組合さくらの郷」が設立された。

・ むらづくり組織の概要

企業組合さくらの郷は、管理組合の設立、道の駅への登録、加工所・食堂等の増設に至り企業組合にまで発展している。

また、組合員84名のうち、半数を超える46名を女性が占め、道の駅スタッフ22名中、20名が女性であり女性の活躍の場になっている。

・ むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

① 直売所開設により、農産物が直売できることから、地元農家が新たな農産物（そば、かぼちゃ、ごぼう、じゃがいも、ほうれんそうなど）に挑戦するようになり、生産意欲を向上させ、多品目の販売もあって、農家の所得向上につながっている。

② 耕作放棄地を解消するための対策として、そば栽培を推進し、道の駅で全量を買ってあげて、道の駅「さくら食堂808」で「十割手打ちそば」等を提供するなど、地元農産物を利用し、地産地消を重視した6次産業化の推進による加工品の製造・販売を行っている。

(2) 生活・環境整備面

① 郷土食の伝承や地元住民、大学等との交流、子どもたちが参加できるイベントを開催して地域交流を行い、関係人口を増加させている。観光資源（しだれ桜）を活用したイベントを実施することにより、賑わいの創出にも寄与している。

② 道の駅では、防災訓練を実施、停電時にも発電することができる「ガス発電システム」を整備し、災害時に対応できる体制（防災拠点機能）を構築している。

③ 企業組合が管理する道の駅は、道路利用者の休憩の場のみならず、農産物直売所として、今後も、関係人口の増加を更に促進する、地区のコミュニティー醸成の場としての役割も期待されている。

・ 他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、女性の積極的な経営参画と一人一票制の企業組合という風通しのよい雰囲気の中、組合員が意見を出し合い運営に反映させることにより、生産活動と地域活動の両輪がかみ合った、住民主導によるむらづくりの成功事例であり、今後の取組の発展が期待できる。

中山間地域において、住民主導で小さな直売所から企業組合まで発展し、活性化した本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。